

第36回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【部会②】

日時：2023年10月4日（水）

全体会・部会①・部会②・部会③ 9:30～11:30（予定）

場所：JR東日本現地会議室

次 第

【部会②】

(1) 開会

(2) 橋上駅舎躯体工事および山留め工事について 【資料1】

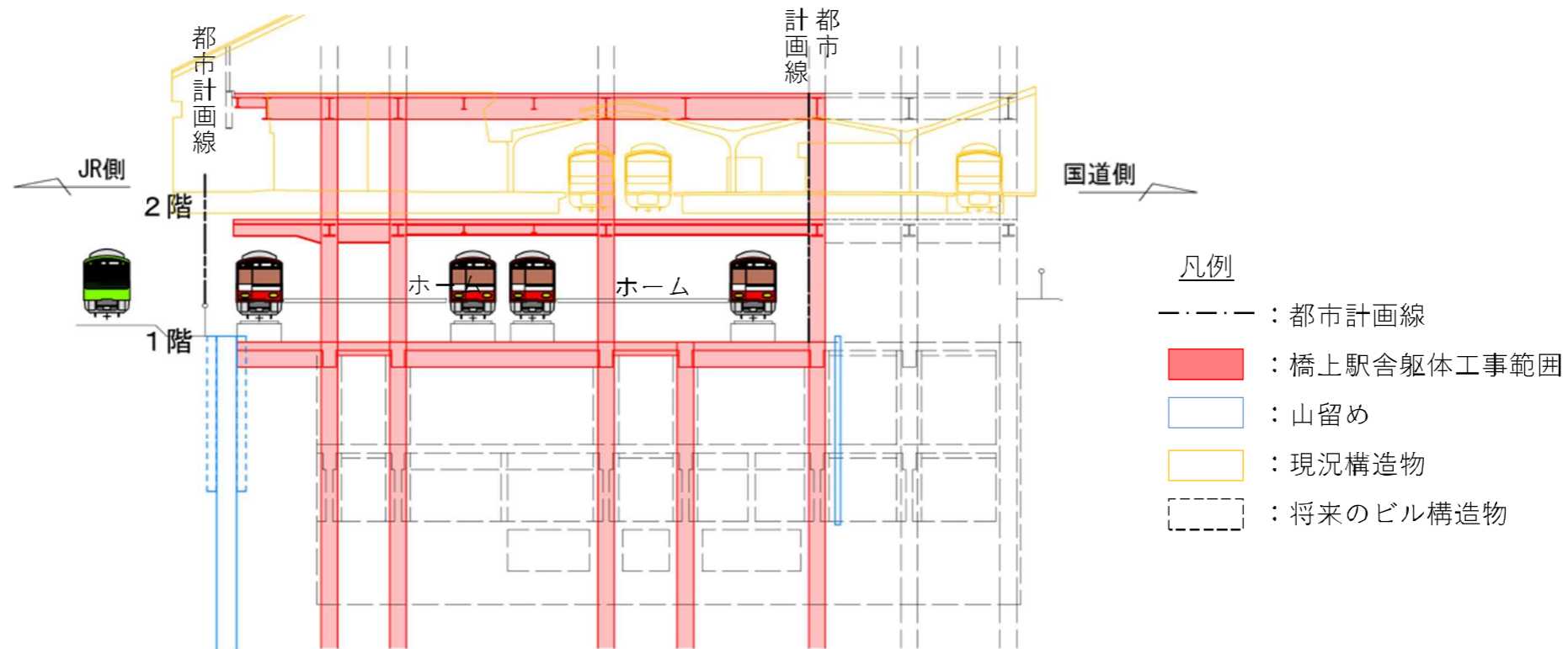
(3) 駅街区における試掘（Bor.9, 仮EV設置部）調査の進捗について 【資料2】

(4) その他

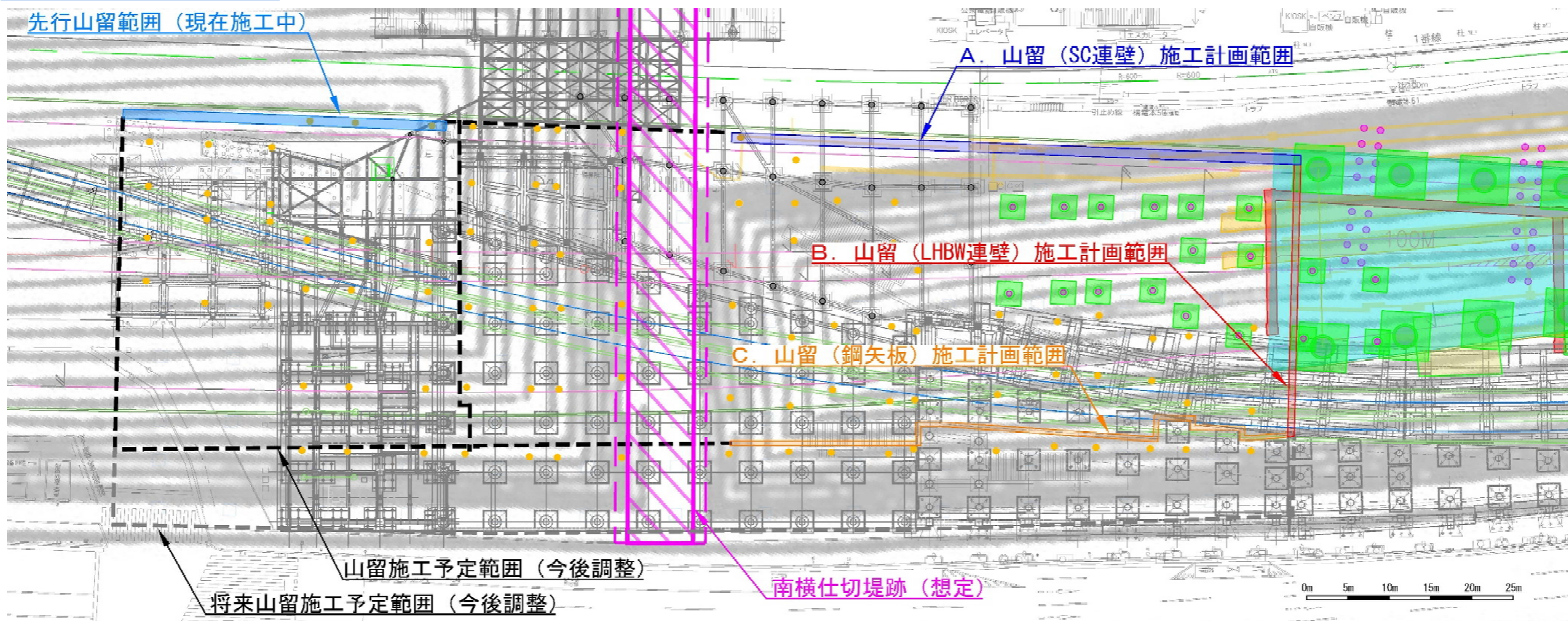
(5) 閉会

橋上駅舎躯体工事

連立事業と合わせて、品川駅の駅舎躯体（鉄道施設やコンコースが収まるビル建物）を構築する。

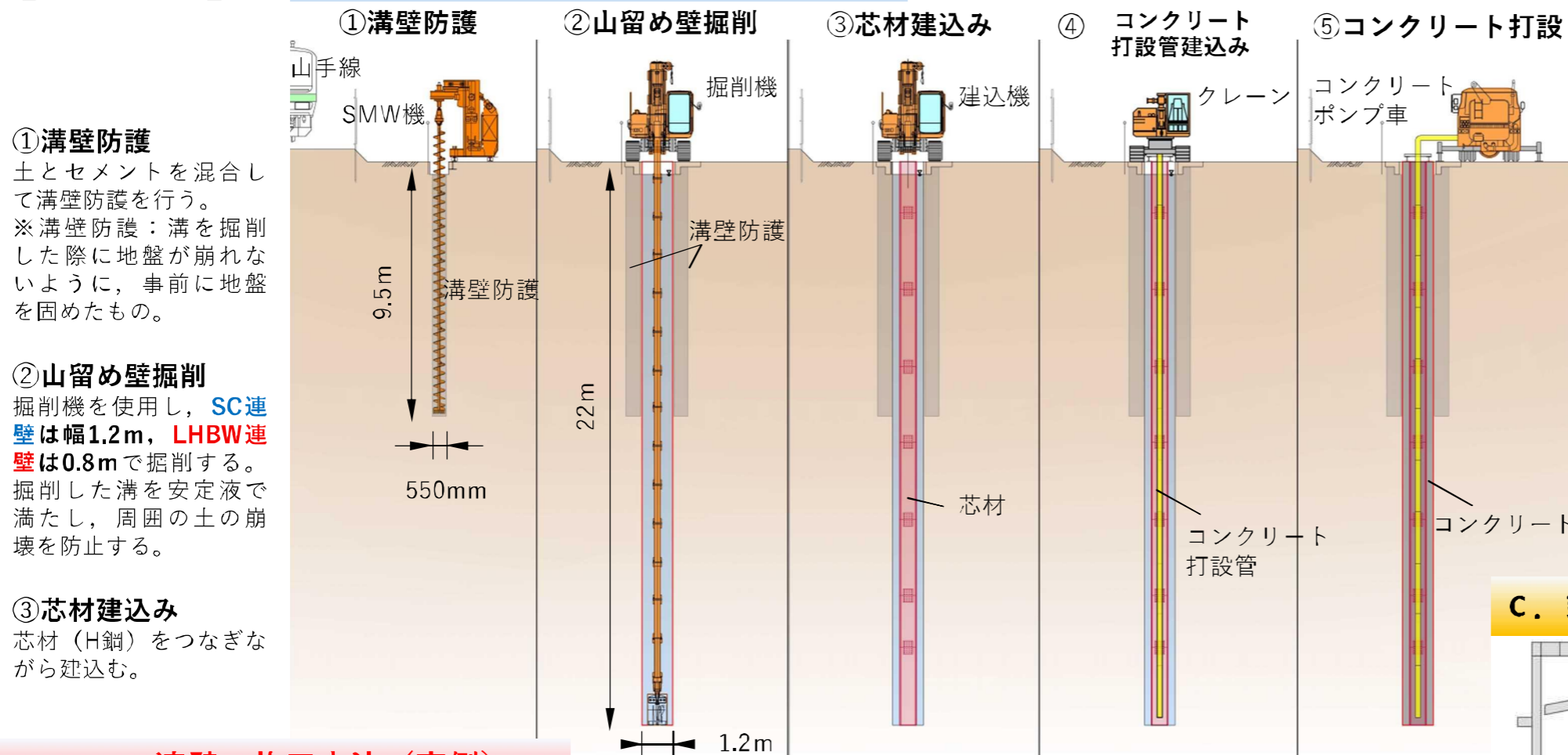


山留め工事について



【施工方法】

A. SC連壁の施工方法（JR側）



①溝壁防護
土とセメントを混合して溝壁防護を行う。
※溝壁防護：溝を掘削した際に地盤が崩れないように、事前に地盤を固めたもの。

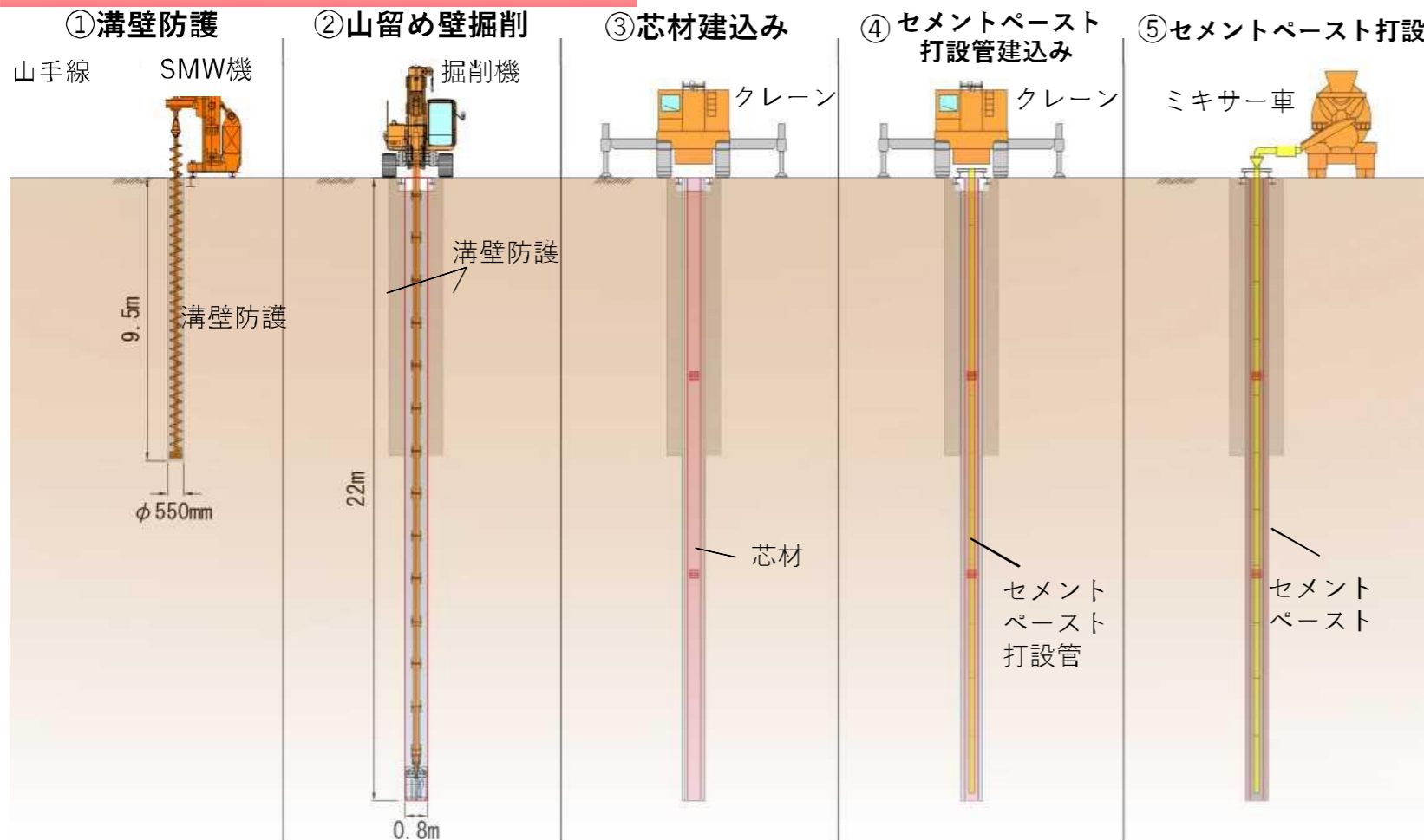
②山留め壁掘削
掘削機を使用し、SC連壁は幅1.2m、LHBW連壁は0.8mで掘削する。掘削した溝を安定液で満たし、周囲の土の崩壊を防止する。

③芯材建込み
芯材（H鋼）をつなぎながら建込む。

④コンクリート打設管建込み
コンクリート打設用の管を芯材間に設置する。

⑤コンクリート打設
コンクリート打設管を通して、溝にコンクリート満たす。

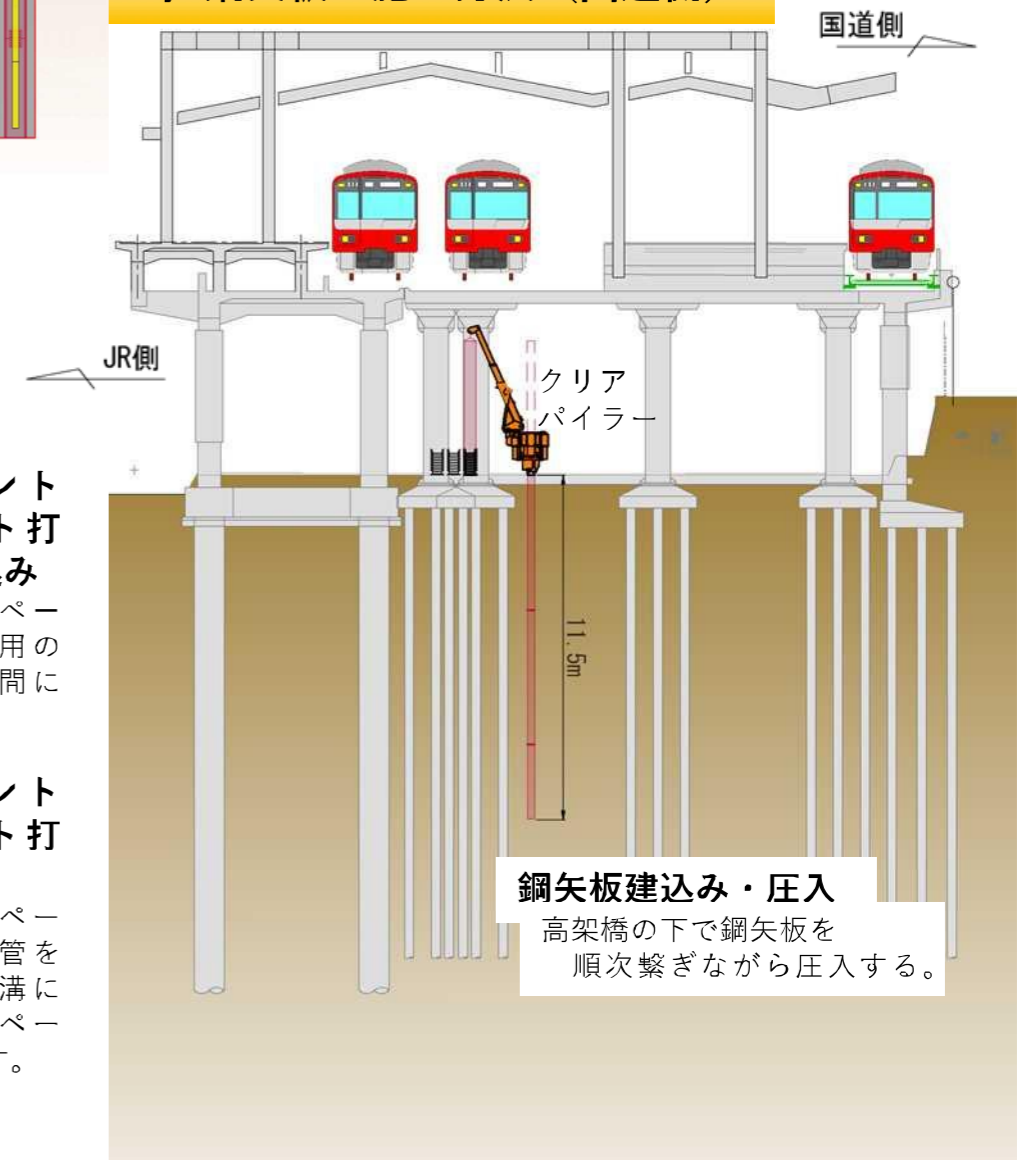
B. LHBW連壁の施工方法（南側）



④セメントペースト打設管建込み
セメントペースト打設用の管を芯材間に設置する。

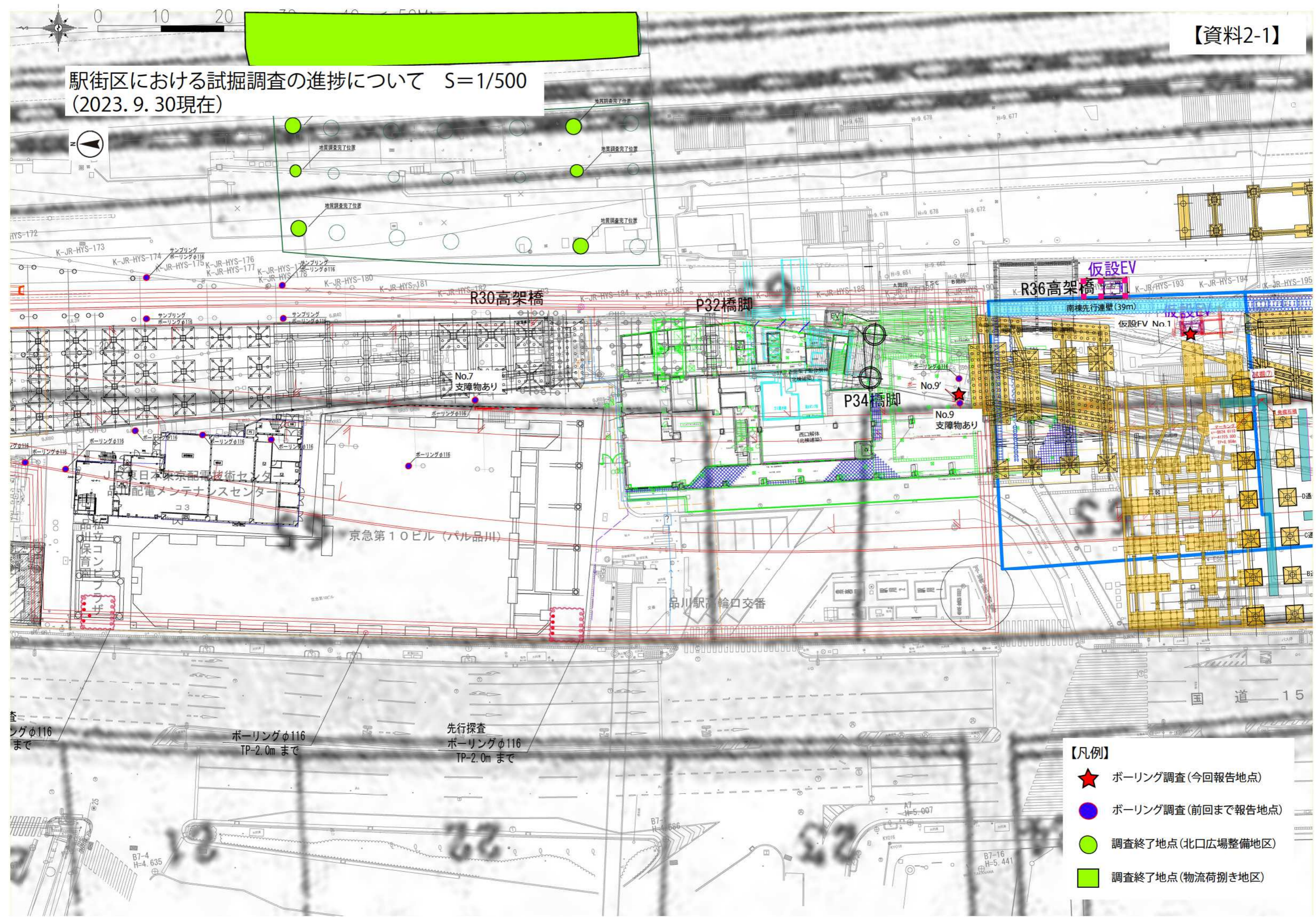
⑤セメントペースト打設
セメントペースト打設管を通して、溝にセメントペースト満たす。

C. 鋼矢板の施工方法（国道側）

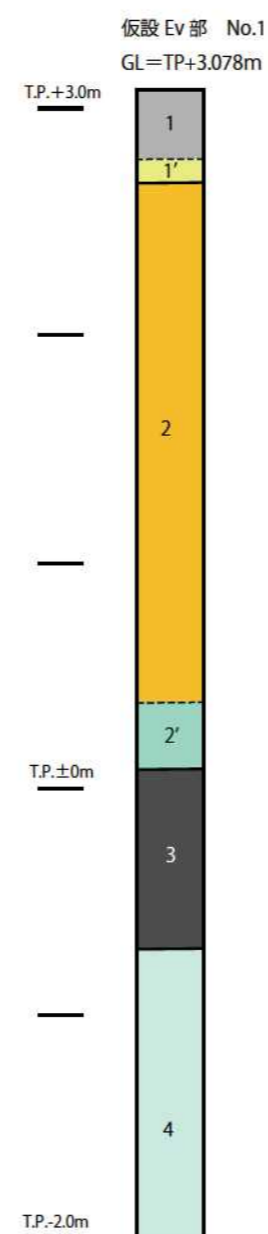
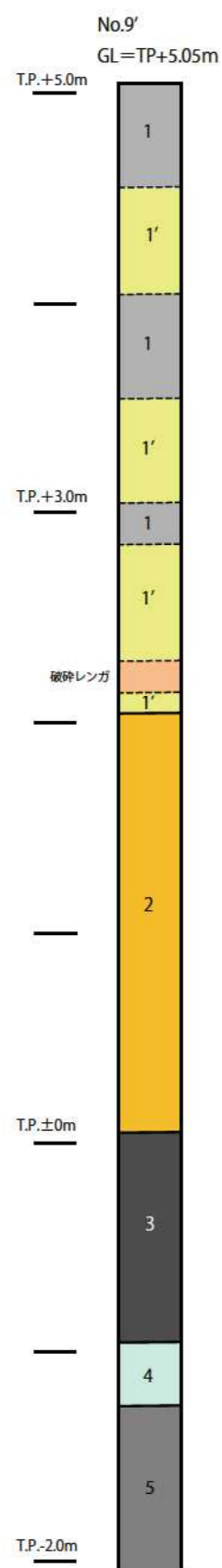


鋼矢板建込み・圧入
高架橋の下で鋼矢板を順次繋ぎながら圧入する。

駅街区における試掘調査の進捗について S=1/500
(2023. 9. 30現在)



- 【凡例】
- ★ ボーリング調査(今回報告地点)
 - ボーリング調査(前回まで報告地点)
 - 調査終了地点(北口広場整備地区)
 - 調査終了地点(物流荷捌き地区)



No.9'

- 支障物を確認した No.9 地点から、東へ 650 mm の離隔を設け、ボーリング調査を実施。
- T.P.-2.0m まで支障物なく、削孔終了。
- T.P.+2.3m 付近で破砕レンガが混入し、GL ~ T.P.+2.0m までは、碎石とロームブロック主体土（炭化物塊が混入する）が交互に堆積する。この層までは攪乱と認定した。
- T.P.+2.0m ~ T.P.+0.05m は、ロームブロックを主体とする埋立て土。
- 埋立て土直下で、粘性の高い泥土を確認。以下、砂質シルト層（層厚 20 cm）、硬質粘土層（基盤層）を確認。
- No.9 の支障物を石垣と想定した場合、石垣の基礎構造物に支障する可能性が考えられたが、木杭や板の断片と見られる遺物は確認されなかった。

【所見】

- 石垣や付随する構造物からは離れていると考えられる。
- 泥土の直上に埋立て土が堆積していることから、水溜めとして利用された後、ほぼ一気に埋め立てられたと見られる。

仮設 EV No.1

- T.P.-2.0m まで支障物なく、削孔終了。
- GL ~ T.P.+2.7m 付近までは碎石等を含む攪乱。
- 攪乱直下 ~ T.P.+0.7m 付近までは、ロームブロックを主体とする埋立て土。
- 埋立て土直下で、粘性の高い泥土を確認。以下、砂質シルト層を認めたが、硬質粘土層（基盤層）は確認されなかった。
- その他、木杭や板の断片と見られる遺物は確認されなかった。

【所見】

- 泥土の直上に埋立て土が堆積していることから、水溜めとして利用された後、ほぼ一気に埋め立てられたと見られる。